



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会
2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504 Fax: (310) 323-6737

3月号会報

2012年(平成24年) 3月 1日(木)

NO. 127

倫理の必要性を実感

社団法人倫理研究所

法人局 松本光司

この度は、二度目となる南カリフォルニア倫理の会への出張では、大変お世話になりました。役員の皆様には、事前の準備、空港や会場への送迎をいただき、また、お忙しい中を勉強会やセミナーに多くの方にご出席いただきましたこと、心より感謝申しあげます。

二〇〇九年に初めて出張した際は、初めての海外出張ということで緊張もありあつたという間の五日間だったと記憶していましたが、今回は、少し余裕を持って視野を広く様々なものを見聞してみようという思いが有りました。予定のほうにもリトルトキーの日系博物館見学やロス市内の観光なども含まれておりましたので、ごく一部とは思いますがアメリカという国の文化に触れることが出来るのではという期待を持っての訪米でした。

二日に訪問した日系博物館では、先の大戦中に日系の皆様が受けられた苦難を知り、その苦難の中からも雄々しく

立ち上がった先人の方々に深い敬意を抱くに至りました。また、三日の昼食を頂いた

リゾートホテルと四日の市内観光に利用した電車からの町並みのギャップには、アメリカという国が抱える問題のよなものも垣間見ることになりました。

人類の恒久的な平和や、物質の豊かさを超越する生き易い社会作りに向けて、改めて、私たちが手にしている

「純粹倫理」の必要性を実感した、意義ある時間でした。創始者丸山敏雄先生は「純粹倫理」は、

一、絶対性、何時、誰が、何処で、どれほど行なつても、常にすべて人類を幸福に導く。

二、普遍性、世界全人類が同時にあまねくこれを行なつても、何人も同時に幸福になる。自他共に同時に幸福になる。

三、一貫性、いつまでも変わらない。歴史により、時代により、何の変化も受けな

ない。

四、基本性、一切生活の基本となり、宗教・教育・政治・経済、すべてのもとに

なり土台になる。これをはなれて人類の文化は成立しない。

という特色を持つていると明記しています。故に、純粹倫理は国境を越え民族や文化の枠組みに囚われることなく地上の隅々にまで広がるべきであり、広げることが可能であると云えます。

この度の出張中に賜りましたご厚情に深く感謝を申しあげ、皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。いずれ訪れる再会の日を楽しみに、お互いに励んでまいりましょう。

ありがとうございました。

二月三日(金) 午後七時より「対立の原理と倫理」をテーマに松本光司先生の講義により勉強会を行なう。

世界は「対の構造」から成り、この世の中は「対立」している。対立の類義語には対抗、反対、敵対、対決など争う事をイメージさせる言葉、又、対応、対話、対策、対面など争う事をイメージしない言葉もあり、要するに「一対一」になっている。上下、前後

純粹倫理勉強会

表裏、天地、陰陽、男女、長幼、親子、夫婦等々あらゆる物事には相反する二つの要素を認めることが出来、両者が対立(相対)の関係であり、相対相補の関係でもある。中国では古くから陰陽論が形成されていた。陰(マイナス、受容)と陽(プラス、発動)のバランスが大切である。この原理の核心は、物事は対立する二者の陰陽の不動の合一から生れると云うことであり「古事記」による国生みの神話における陰陽の合一の解説があり、人間社会にあつて「対立の原型をなす場の基本は夫婦関係、家族関係にあり①結束力②共感力(相手の気持ちを理解する)③忍耐力④思考力⑤実行力である。と、大変解りやすく、入会して日が浅い会員もいましたので、素晴らしい講義でした。

私達も本の上の勉強だけでなく実行力継続を頭に、胸に実践しましょう。なお二月三日は節分ですので福豆をいただき閉会。

出席者十三名
(門園美枝子記)

朝の講話

二月五日（日）モーニングミクスラーで、今回ロスアンゼルスは、二度目となる倫理研究所北海道、東北方面、副方面長の松本光司講師に「清き耳で学ぶ」という課題で講話をしていただきました。

まず第一に、「学ぶ」という言葉の語源は、おそらく「真似る」という言葉から来ているのであるろうということ、日本文化には、守、破、離、の三つの素晴らしい学びのシステムというものがある。まずは、守。これは、落語などの一門に入ると、今までやってきたことを、全て捨て、師匠、兄弟子のやっていると、徹底的に真似るということが、何よりの基本である。

そして次の、破、というのは、同じことを何度も何度も朝から晩まで繰り返しやっていっていると、自然と応用が利くようになる。こうした段階を踏まえてやって、そして、そこからはなれて自由にやっていけるのである。

しかしそれが、最近の学校教育育などは、離、から始めるので、

ちよつとした壁にぶつかると、どう対処してよいのかわからなくなったり、登校拒否を起こしたり、行き詰ると、手首を切ってしまうということも起こってしまうのである。

第二は、新しいものを得るには、空っぽになるからこそ新しいものが、入ってくるのであるということ。水のいっぱい入ったコップには、もうそれ以上水を入れることは、できない。その中の水を捨てないことには、新しい水を入れることはできないというたとえです。

松本先生の体験から言うと、先生が倫理に入り、三ヶ月の研修に行った時、どうしても十七カ条の暗唱ができなくて、教官に泣きついたところ、君はまだ捨て切れないねと忠告された。そして要らないものを全て処理し、汚いものを全て捨てて、清掃をしてみると、すらすらとできるようになった。心境を変えてみただけで、自分のなかのグラスが、空っぽになったらできた。

そして最後に、「清き耳を持つ」ということは、「学び」の極

意である。清き耳を持つということは、素直に聞くということであり、勝手に解釈をするから耳が痛むのである。だから幼い子は、素直な耳を持っている。という素晴らしい講話をしていただきました。

（参加者 三十四名）
（尾崎勝宏 記）
* * * * *

倫理セミナー

二月五日（日）午前十時～十一時半、松本光司講師によりオフィスで開催。テーマは「スツキリ生活のススメ」

捨てるコツの第一、「過去の栄光、思い出をすてる。」と話されたとき私は「エッ、」と思ってしまった。「親の形見」とか「これがないと生きていけないもの」などは除くで安心。

最後の第四は「もつたいたいものから順に手放していく」でも「ドキッ」ときました。が、「必要なものを捨てるのではない」と説明されて多数のセミナー参加者は納得したと思います。

第二の「品位を下げるもの、壊れ物」、第三の「いつか必要な

もの、期限切れのもの」なども理解できました。あらためて「整理、整頓、後始末」の大事なことを勉強しました。とくに「後始末」は多かれ少なかれ誰でもしていることなのに「仕事の締めくくり」だけでなく、「次の仕事の始まり準備」も兼ねていることになる理由を聞くといろいろと反省しました。

大自然、社会経済、生き物、この世の中のこと、ものすべては常に動いているのですから、「こと、ものが多くなればなるほど動きが鈍くなる」というお話もすばらしかった。かつて「何にも持っていない」からです。赤ちゃんが生まれるときオギャーといって息を「はきだし」ます。天国へ行くときは息を「ひきとって（入れて）」昇天します。

人が生きることとはものをはきだすこと、に通じるという貴重な勉強をしました。遠い海の向こう側からおいでになつてくださって、すばらしいセミナーを有難うございました

ました。

参加者四十九名

内末会員十四名
（大竹信雄記）

懇親会

二月五日（日）オフィスにおいて正午十二時より松本光司講師を迎えてチャイニーズフードでの懇親会が行われました。お雑煮会に続いての今年度第二回目の懇親会。大盛響のセミナーの後であったせい参加者も多く、和気あいあいの内に時間が流れ最後は松本先生への記念品贈呈で懇親会は締めくくられました。

出席者 三十八名

（氏家正子記）



ロス市内見学

二月四日（土）松本光司先生と会員四人でロス市内の見学に行きました。機会がないと行かないもので、何十年ぶりの見学でした。メトロ電車に始めて乗りました。ワッツを通りましたが、乗客は礼儀正しく乗っていて、暴動が起きた場所とは思えませんでした。

ハリウッドに行き、川田会長案内でUTBテレビ局の中を見せてもらいました。福島ディレクターの説明に、たくさんの方の努力がテレビに結集されていることを知りました。

チャイニーズアター、コダックシアターなどを見てユニオンストーションからオルベラストリートに行きました。ロスアンゼルス発祥の地の碑に、しみじみその当時間が想われます。

そこから玩具の間屋がひしめいているトイデイストリクトを見学。桜が咲いている小東京を歩き、電車で帰って来ました。お天気に恵まれ我が街のダウンタウンを知る良い一日でした。

（ホン史子記）

短歌のできた境地 (59)

嫁と娘は横目で子等を監視しつつ子育て談義に花咲かせおり

梅本豊造

一緒に遊んでいる子供さん達へ、チラチラと目をやりながら、子育て談義に花を咲かせているお嫁さんと娘さんを詠まれた歌です。何でもない日常のひとコマそのままのようですが、「娘と嫁は：：」とならない所に、梅本家の自然な温かさが溢れていて、ご家族皆の仲の良さと、皆を見守る作者のほのぼのとした気持ちが見えるようです。お母さん達の「横目で監視」が歌を楽しくさせています。

（草野律子記）

✿ save the date ✿

倫理文化講演会

講師 田形健一常任理事

日にち 五月二十日（日）

場所 ホリデーイン・トーレンス

レンス

子ども短歌コンクール

文化講演会のプログラムの一つとして「子ども短歌コンクール」を行います。詳細は、対象・・・小学生の部

中学、高校の部

締め切り・四月十五日必着

提出先・・・Rinri Kenkyusho USA

2202 W. Artesia Blvd, Unit L

Torrance CA 90504

応募方法・作品は新作未発表を

一人二首まで。名前、住所、

年齢、電話番号、対象の部を

明記。用紙は何でも可。

賞・・・最優秀賞各部一名

五十ドルの図書券

優秀賞各部二名

二十ドルの図書券

発表・・・入選者に電話連絡

表彰式・・・文化講演会で。

注意事項・入選作の著作権は主催者に帰属。作品はお返して

きません。

※会員の皆様のお子さん、お孫さんに応募を勧めて下さい。また、お友達、学校の先生方にお知らせして、たくさんの方に応募して頂くよう、ご協力を御願ひ致します。

おめでとうございます

『しきなみ』二月号

二席 松永典子 群螢集（東京）

三口目のロゼのワインにほろ酔いて心の紐を
静々と解く

（評）ワインが心の紐を解き、おしやべりにし
てくれた。ご主人が喜んでいる。

入選 門園美枝子 群螢集（東京）

夕つ方風に撓いて秋桜の花びら散らし晩夏す
ぎゆく

入選 ホン史子 群螢集（東京）

みどり葉の豊かに繁るそを透し茶に色づきし
なつめ見えたり

一席 草野律子 真砂集（西東京・海外）

「俺達も助けて貰って今がある」若き同業者
に手を貸す夫は

（評）困った若者へ手を貸す夫の姿に倫理があ
り、清掃を心がける作者にも、人を愛し、
店を愛するたましいの歌である。

入選 梅本和子 真砂集（西東京・海外）

腰痛の苦しさを知り憶うのはギックリ腰の夫
への反省

入選 長谷川公子 真砂集（西東京・海外）

天災は紀伊半島に襲いかかる熊野古道や那智
大社にも

一席 杉野和子 飛雲集（西東京・海外）

老いの日の独り居に倦み詠み始めし短歌（う
た）に託さん夫の想いを

（評）七十過ぎて短歌を始められ、御夫君へ
の思いを詠まれるようになった。下句

の表現がとても素敵で感動しました。

『秋津書道』二月号

入選 芸術部 人の部 滝川政和

入選 高等部 梅本豊造

三席 一般部 草書 咲田静子

（評）元気良く大らかな作品です。

入選 一般部 行書 前田グレース

四席 一般部 楷書 竹内康子

（評）筆勢があり、生き生きとした作品

五席 一般部 楷書 トイフェル佳江

入選 一般部 楷書 野田由加里

入選 一般部 楷書 小倉治望

三席 一般部 調和体課題 咲田静子

子ども短歌コンクール

小学生、中学生、高校生を対象に短歌
コンクールを行います。応募規定、詳
細は会報3頁に掲載しました。

しきなみ短歌

温かきロスに冷えこみつづく頃屋根白く
して霜柱立つ 奥本洋子

若き日に友と登りし御在所岳老いたる今
は仰ぎ見るのみ 杉野和子

ブラジルもアメリカもみな一世は困難乗
り越え今日があり 長谷川公子

クブチ砂漠に毎年行くと文に告ぐ砂丘に
立ちし彼の背思いぬ 塩出笑子

高山の野ばら優しく咲きほこり心いやされじ
つと見つめる 橘高比呂美

車窓から見える秋空青濃くて切つて貼りたし
わたしの心に 伊澤潤子

夕食を母にスプーンで食べさせてはや一年の
日課となりぬ 梅本豊造

姑慕い子供らを連れ訪ね来る息子夫婦はいと
有難き 梅本和子

強風に打たれ藤の実のパチパチと音たて爆ぜ
る秋は闌（た）けゆく 門園美枝子

息子ら帰り老いの日常戻り来る菜食簡素静か
にパソコン ホン史子

病む夫の眠れぬ夜に重き朝明けゆく光よ我ら
を包め 松永典子

電飾の灯る師走の片隅に家なき人のダンボー
ル小屋あり 草野律子

画家の目にうつる世界の色どりは我等と違い
より鮮やかと 摺木洋子

カナダにてロッキー仰ぎ鼓舞される自然を崇
めて心やすらぐ 山内洋一

くもの巢に霜がかかってくつきりと網目模様
が結晶のよう 松元依子

いつの間に学んだ言葉スペイン語娘の住んで
る見知らぬ世界 大川敏子

認知症の友にほんのり紅をさしパーティーに
同行の素敵な介護士 滝川歌子

俺は今日ワシは明日よと手術日を語らいあい
し午後の病室 伊勢田豊

吾のためパーベキューを企画するロスの会友
にただ有難し 中村正生